

2027 年ベオグラード国際博覧会

日本館基本計画

国際博覧会ロゴ



BIE 認定博ロゴ



令和 7 年 10 月

ベオグラード国際博覧会日本政府出展検討委員会

幹事省：経済産業省

副幹事省：文部科学省

参加機関：日本貿易振興機構（ジェトロ）

序文

2027 年ベオグラード国際博覧会（以下、「ベオグラード博」という。）については、2025 年 8 月 8 日の閣議了解により経済産業省を幹事省、文部科学省を副幹事省、独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）を参加機関とし、日本政府として公式参加することが決定している。

この日本館出展に当たって、出展内容のあり方等を定める基本計画を策定する必要があることから、2025 年 9 月、有識者を中心とした「2027 年ベオグラード国際博覧会 日本政府出展検討委員会」をジェトロに設置し、幹事省の経済産業省と副幹事省の文部科学省も参加して、議論を重ねてきたところである。

この基本計画は、今後の日本館出展事業を進めるに当たっての基本的な方針であり、これに基づいて、日本館の展示、広報、行催事、運営等の準備を行っていくことになる。

また、幹事省及び副幹事省の連携を含め、関係省庁・政府機関一体となった取り組みを進めるとともに、国民、関係企業・団体等の理解と協力を得ながら、官民一体となって進めていくものである。

なお、この基本計画は、ベオグラード博の概要やベオグラード博に参加する意義、テーマ及び展示、広報、行催事、運営等の基本的な考え方を示す構成とする。

また、参考資料では、セルビア共和国（以下、「セルビア」という。）やベオグラード博及びパビリオンに関する情報等を参考として添付している。

目次

序文	1
第一章 ベオグラード博の概要と参加について	3
1 ベオグラード博について	3
2 基本計画策定までの経緯	4
3 日本にとってベオグラード博に出展する意義とは	5
第二章 日本館のテーマについて	
1 テーマ	7
2 テーマに込めた思い	7
第三章 日本館の出展方針	8
第四章 今後のスケジュール	10
参考資料	11

第一章 ベオグラード博の概要と参加について

1 ベオグラード博について

〔出所：ベオグラード国際博覧会公社（以下、「万博公社」という。）のウェブサイト、
博覧会国際事務局（以下、「BIE」という。）のウェブサイト〕

会期： 2027 年 5 月 15 日（土）～2027 年 8 月 15 日（日） ※93 日間

会場： セルビア ベオグラード市（面積 25ha）

主催者： 万博公社（CEO Mr. Danilo Jerinić）
※ 万博会場の開発と整備は財務省が所管。万博公社は参加招請
や開催準備を担当。

博覧会政府代表 Mr. Žarko Malinović

テーマ： Play for Humanity: Sport and Music for All
（人類のためのあそび：すべての人のためのスポーツと音楽）

サブテーマ：	Power of Play	（あそびの力）
	Play for Progress	（進歩のためのあそび）
	Play Together	（一緒にあそぶ）

※ テーマ展開に関する主催者の説明

不安に満ちた世界で、強靱な個人と共同体を構築するために、人間はあそびの力を活用できます。「あそび」は人間の創造、革新、成長を可能にする未来の超越的な力になると見なされています。「技術主導の不安に満ちた世界で、今後、人間が打たれ強くなるために、身体、心、論理をどう整えていくか」という課題に対して参加国が最適な形でアイデアや解決策を提示できるよう、メインテーマのもとに複数のサブテーマを設けました。ベオグラード博は、音楽とスポーツに彩られたあそびの力で、世界の復興を祝う大きな祭典となるでしょう。

参加国数： 121 以上
2025 年 10 月 2 日、万博公社は以下を含む 121 カ国が参加確定と発表。
米国、中国、ロシア、ドイツ、スイス、イタリア、ギリシャ、トルコ、カタール、モンテネグロ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、北マケドニア 等

来場者数： 400 万人以上

【来場者内訳】 「のべ数」にはリピーターを含む。

居住地域		実人数		のべ数	
国内	ベオグラード	588,492	21.7%	1,471,229	35.8%
	他地域	993,120	36.6%	1,390,367	33.8%
海外		1,133,063	41.7%	1,246,369	30.3%
合計		2,714,675	100.0%	4,107,967	100.0%

※参考

BIE による認定博覧会の定義

	登録博覧会	認定博覧会
会期	2 つの登録博覧会の間に 5 年以上の間隔を置く (6 週間以上 6 カ月以内)	2 つの登録博覧会の間に 1 回だけ開催可 (3 週間以上 3 カ月以内)
会場	制限なし (大阪・関西万博は 155ha)	25ha 以内(参加国当たり 1,000 m ² まで割当可能)
テーマ	普遍的、総合的	特定、専門的

※ 登録博覧会では参加国が独自にパビリオンを建設することも可能だが、認定博覧会では主催者が建物を用意して参加国に展示スペースを提供する形態が一般的。

2 基本計画策定までの経緯

我が国は、2024 年 11 月にセルビアから参加招請を受け、2025 年 8 月の閣議了解で、幹事省を経済産業省、副幹事省を文部科学省、参加機関を日本貿易振興機構(ジェトロ)として、公式参加することとなった。

2022 年 1 月 25 日 2027 年国際博覧会の開催地にセルビア(ベオグラード)が立候補

2023 年 6 月 21 日 第 172 回 BIE 総会においてベオグラードでの開催が決定

2024 年 11 月 25 日 第 175 回 BIE 総会において開催計画の正式承認

2024 年 11 月 27 日 ブチッチ・セルビア大統領から天皇陛下及び石破内閣総理大臣に対して、正式に参加を招請する旨の書簡が接到

2025 年 8 月 8 日 閣議了解により公式参加を決定

3 日本にとってベオグラード博に出展する意義とは

(1) 万博を通じた国際貢献

国際博覧会は、世界中の国や地域、国際機関が地球的規模の課題の解決に向けて知恵を持ち寄り、対話を深めることによって、より良い世界をつくることに寄与する場である。日本は、ベオグラード博への出展を通じてテーマに対するひとつの見方を示すことで、参加国間あるいは来場者間の意見交換の活発化に貢献できる。

また、館全体として、大阪・関西万博に参加した世界中の国と地域、人々に対する謝意を表するとともに、これまで多くの国際博覧会を開催してきた国として、その経験の蓄積を伝えるという点でも貢献することができる。

(2) 開催地域や国際社会でのプレゼンス向上

セルビアは、文化面では欧米の影響が強く、経済面ではドイツなど欧州に加えて中国の存在感が高まっている。現時点では直行便が無いなど、セルビアと日本の繋がりはまだ深くないが、ジェットロ・ブダペスト事務所が 2024 年 8 月に実施した日本のイメージに関するオンライン調査によると、セルビアには日本に対して好意的なイメージを持っている人が多い。そのため、本万博に参加することは、現地での日本の認知度をさらに高め、セルビアにおける日本のプレゼンスを強化する機会になる。

世界各地から様々な人材と多くの来場者が参加する国際博覧会は国際交流と効果的な情報発信の機会であり、この場を活用して、日本の文化や歴史、優れた技術や製品、サービスをセルビアや海外に紹介できる。また、出展にあたっては、セルビアの歴史(12 ページ参照)をよく理解した上で、博覧会のテーマに沿った展示や広報、行催事を通じ、現地における日本や日本人に対する理解促進を図ると同時に、より多くの日本人が現地の人と関わる機会を設けることで、両国の関係を深化させることができる。

(3) 成長市場でのビジネス促進

世界銀行の最新データによれば、2023 年におけるセルビアの GDP 成長率は 3.8%、1 人当たり GDP は 12,281.5 米ドルで、今後も伸長が見込まれている。人件費や光熱水道料金など投資関連コストも比較的安く、税制優遇措置も充実している。また、セルビアは西欧、中欧と中東の間で、隣接する大市場にアクセスしやすい好立地にある。このような状況から、2023 年のセルビアへの対内直接投資額は 45 億 6,400 万ユーロと、2014 年比で約 3 倍に増加した(中国とオランダが上位を占め、日本は第 10 位)。セルビアは、自動車産業、ハイテク・情報通信技術産業、電子機器・家電産業などを中心に、外資誘致に力を入れており、日本企業の

間でも、市場としても、進出拠点としても、関心が高まっている。

また、ベオグラード博出展を、日本企業がセルビア及び周辺地域でビジネスを拡大する機会として活用することも有意義である。ドバイ国際博覧会では、主催者が国際博覧会を「ビジネス創出の機会」と位置付けて、ドバイ商工会議所や参加国と連携し、会期中、積極的にビジネスイベントを展開した結果、参加国から高く評価された。この新しい流れは、大阪・関西万博にも継承され、日本政府及び関係機関が参加国・地域と日本企業等のビジネス交流を支援し、参加国・地域も積極的にビジネス活動を展開した。ベオグラード博においてもこれを継承し、さらに促進すべきである。



2024 年 10 月 17 日、プチッチ大統領臨席のもと、セルビアの首都ベオグラード市で開催された「日本セルビア・ビジネスフォーラム」には日本企業 70 社から 92 名が参加。

(写真:ジェトロ撮影)

第二章 日本館のテーマについて

1. テーマ

ともにあそび つながる 日本のあそび心

2. テーマに込めた思い

2027 年ベオグラード万博のテーマ「人類のためのあそび」は、世界が分断の様相を深めるいま、手を携えてともに考える価値を湛えた、真に普遍性を持つテーマである。セルビアが開催国として世界に投げかけたこのテーマに、日本の立場から応えるにあたって、私たちがまず想起したのは、2025 年大阪・関西万博のセルビア館である。

同館では、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を、次期ベオグラード博の「あそび」に接続させるユニークな展示を構築された。開催国であった日本が閉幕後初めて参加するベオグラード万博の日本館では、「いのち輝く未来社会のデザイン」、そして大阪・関西万博のレガシーとなった「多様でありながら一つ」のコンセプトを「あそび」というテーマのなかへ昇華させることで、セルビアへの返礼としたい。

あそぶことは、つながることであると、私たちは考える。好奇心に導かれるままに、夢中になってあそぶとき、人と人がつながる。そして、あそびながら自然とかわり、自然のなかで戯れ、また周囲の環境を探究することで、すべての生命体とつながっていく。つながろうとすること自体があそびにもなる。

「あそび」にはもともと、余白、余裕という意味合いも含まれている。建築などにおける物理的なゆとりもあれば、人の心のゆとり、なかでもユーモアや可笑しみなどの要素は、その重要な一端である。それらは生活のなかの習慣や知恵として受け継がれてきた。そのような余裕こそが、人と人、すべてのいのちのつながりを可能にする。

これは「あそび」のもつ普遍的な性格であると同時に、日本社会のさまざまな場面で、日本の歴史にねざしたその発露を特徴的に見出すことができる。日本館ではこのような観点から、日本社会で過去から現在にわたり、さまざまな世代によって受け継がれてきたあそびの諸相を紹介する。それを総称する日本館のテーマを、「日本のあそび心」とした。

この展示を通じて、「ともにあそび、つながる」ことの先に「いのち輝く未来」があること、「ともにあそび、つながる」ことこそが、世界が直面する様々な分断を乗り越え、「多様でありながら一つ」を実現する力となることを表現したい。

第三章 日本館の出展方針

以下の観点を考慮しながら検討するのが望ましい。

【出展に当たり留意すべき点】

(1)開催地の情報

- ・ 開催国や周辺地域の歴史、地政学的な特異性
- ・ マーケティング、情報収集(現地から見た日本、現地が求めるもの/求めないもの)
- ・ 現地特有の法規制・慣習

(2)過去博の理念やレガシーの継承

- ・ 大阪・関西万博の成果紹介
- ・ 万博を契機とするビジネス活動支援

(3)分野横断的で包括的な体制構築

- ・ 分野や官民の枠組みにとらわれず、包摂的な出展体制を構築

(4)協賛者への特典

- ・ 優先入館、VIP 応接、ビジネスイベント(記者会見、セミナー、商談会 等)

(5)日本館の活用(VIP ルームの設置、多目的スペースの設置等)

- ・ 外交、商談、催事などにもパビリオンを活用できるよう意識した設計
- ・ フレキシブルに活用できる多目的スペースの設置を検討(ビジネスイベント、文化イベント、企業や市民による多様な交流等を開催)

(6)人と人の交流機会の重視

- ・ 来館者とスタッフとのリアルな交流
- ・ 博覧会関係者、他国館関係者 等との交流
- ・ 日本でセルビア関係を研究している学生や、セルビアで日本関係の研究をしている学生との積極的な連携
- ・ より多くのセルビア人に、日本を訪問したいと思ってもらえるような機会の提供

(7)環境配慮

(8)安全確保(感染症対策、暑熱対策、混雑対策 等)

(9)ユニバーサルデザイン(バリアフリー、多言語対応 等)

(10)時節をとらえた出展・広報

- ・ 2027 年にかけて開催される世界的なイベントやトレンドを意識した出展・広報を行う。

【展示】

- ・ セルビアと日本のつながりに触れる。
- ・ こどもから大人まで、幅広い年齢層が楽しむことができ、来館者の記憶に残るパビリオンをめざす。
- ・ 過去から現在、現在から未来へのつながりをストーリーで語り、メッセージに一貫性を持たせる。その過程で来場者に考えるきっかけを提供し、気付きや行動変容を促す。
- ・ 従来の映像中心の手法にとらわれず、双方向性を意識する。来館者が各コーナーで立ち止まって双方向性を体感できるような仕掛けが望ましい。
- ・ 来館者がアテンダントとのリアルな交流を実感できるように工夫する。
- ・ リアルとデジタルに境界線なく、しっかり繋げて見せる。
- ・ 日本館の展示内容の閉幕後の活用方法について、会期前ないしは会期中の段階から意識する。
- ・ 期間限定の展示(展示替え)についても検討する。
- ・ 日本館のテーマを反映した上で、全体構成に無理のない範囲で、ベオグラード博のサブテーマに含まれる「スポーツ」、「音楽」についても考慮する。

【広報】

- ・ 現地で対日理解を深めてもらうとともに、日本でもセルビアへの理解を促進する。
- ・ 日本がセルビア博に参加していることについて、SNS 等を活用して効果的に発信する。

【行催事】

- ・ 人の交流を促進すべく、より多くの来場者が参加でき、楽しめる機会を提供する。
- ・ 行催事で日本食を体験できる機会についても検討する。
- ・ ベオグラード博のサブテーマに含まれる「スポーツ」、「音楽」についても考慮する。

【運営】

- ・ 来館者の安全確保に努め、不測の事態に備える。
- ・ 来館者に、日本に対する好感を持ってもらえるように、接遇を工夫する。
- ・ 会期後半などの混雑期にも円滑な運営ができるよう、柔軟性を持たせた運営体制とする。

【営業】

- ・ 飲食や物販などの営業活動も日本館出展の一部として検討する。
- ・ 開催地域(セルビアおよび周辺国)での対日理解と、日本企業のビジネス展開を促進するため、日本館での飲食店出店公募を検討する。

第四章 今後のスケジュール(予定)

2024 年度	事前調査
2025 年 6 月 10～11 日	万博公社がベオグラードで国際企画会議を開催
2025 年 8 月 8 日	日本政府の公式参加が閣議了解され、参加表明
2025 年 9～10 月	日本政府出展検討委員会(日本館出展の基本計画を策定)
2025 年 12 月	総合実施計画・調整、展示設計・監理、広報業務の開始
2026 年 3 月	展示設計(基本設計、実施設計、主催者による審査) 広報基本計画、行催事基本計画、運営基本計画の完了
2026 年 5～7 月	展示施工／行催事／運営の業務開始
2026 年 10 月	出展スペース引き渡し(予定)
2027 年 3 月 31 日	展示竣工期限
2027 年 4 月 30 日	展示物設置完了期限
2027 年 5 月 5 日	テストラン
2027 年 5 月 15 日	開幕

参考資料

■セルビア概況（出所：日本外務省ウェブサイト）

※はジェトロ注記（出所：駐日セルビア共和国大使館 等）

【一般概況】



正式名称： セルビア共和国 (Republic of Serbia)

人口： 662 万人 (2024 年、セルビア統計局)

面積： 77,474 平方キロメートル (北海道とほぼ同じ)

首都： ベオグラード (人口約 168 万人)

民族： セルビア人 (80.6%)、ハンガリー人 (3.5%)、
ボシュニャク人 (2.3%) 等 (2022 年国勢調査)
※ 住民の大部分はセルビア人だが、他にも 37 の民族が存在

言語： セルビア語 (公用語)、ハンガリー語 等
※ 公的機関ではセルビア語とキリル文字が使用されているが、街中やメディアではラテン文字も幅広く見られる。

宗教： セルビア正教 (セルビア人)、カトリック (ハンガリー人)、
イスラム教 (ボシュニャク人) 等

政体、議会： 共和制、1 院制

元首： アレクサンダル・ブチッチ大統領〔2017 年 5 月就任（2 期目）。任期 5 年〕 ※2022 年 5 月 31 日に再任。3 選禁止。

政権： セルビア進歩党連合を中心とする連立政権

略史：

6 世紀～7 世紀 セルビア人等スラブ系民族がバルカン半島に定住。
11 世紀 セルビア王国建国、14 世紀のドゥシャン王の時代に大いに栄える。
1389 年 オスマン・トルコに敗北し、その支配下となる。
1878 年 ベルリン条約によりセルビア王国の独立承認。
1918 年 第一次世界大戦後、「セルビア人・クロアチア人・スロベニア人王国」（後、ユーゴスラビア王国）建国。
1941 年 第二次世界大戦中、ナチス・ドイツによる占領。ユーゴスラビア王国消滅。
1945 年 「ユーゴスラビア連邦人民共和国（1963 年に社会主義連邦共和国に国名変更）」（6 共和国で構成）の 1 共和国となる。
1992 年 ユーゴ解体の中で、モンテネグロとともに「ユーゴスラビア連邦共和国」を建国。
1999 年 コソボ紛争により、NATO 空爆を受ける。コソボが国連の暫定行政下となる。
2003 年 「セルビア・モンテネグロ」に国名変更。
2006 年 モンテネグロの独立（6 月）により、「セルビア共和国」となる。
2008 年 コソボがセルビアからの独立を宣言（2 月）。
2014 年 EU 加盟交渉開始（1 月）。

■セルビアの人口構成と近隣国の人口（出所：万博公社、コソボのみ日本外務省）

※単位は人

年齢層	セルビア		うちベオグラード首都圏	
14 歳以下	955,452	14.4%	254,270	15.1%
15～29 歳	1,047,543	15.8%	263,519	15.7%
30～44 歳	1,325,378	19.9%	377,571	22.5%
45～59 歳	1,377,869	20.7%	340,892	20.3%
60 歳以上	1,940,761	29.2%	445,153	26.5%
合計	6,647,003	100.0%	1,681,405	100.0%

※うち 女性 341 万人(約 51%) 男性 323 万人(約 49%)

※人口ピラミッドは日本と似た「つぼ型」で、少子高齢化と人口減少が進行

ボスニア・ヘルツェゴビナ	3,233,526	モンテネグロ	616,159
北マケドニア	2,057,679	クロアチア	3,854,000
スロベニア	2,108,732	ハンガリー	9,683,505
ブルガリア	6,465,097	ギリシャ	10,566,531
ルーマニア	18,956,666	ドイツ	84,079,811
アルバニア	2,775,634	オーストリア	9,042,528
スイス	8,769,741		

■観光客数(2024 年、セルビア統計局)

世界計 2,384,735

トルコ	232,527	ロシア	184,609
ボスニア・ヘルツェゴビナ	167,983	中国	156,644
ブルガリア	132,054	ドイツ	130,485
クロアチア	120,637	北マケドニア	118,605
ルーマニア	111,232	モンテネグロ	104,543
スロベニア	86,648	ギリシャ	74,543
ハンガリー	58,975	ハンガリー	59,320
イタリア	52,182	オーストリア	48,703
スイス	35,390	アルバニア	6,988

■経済概況 ※在セルビア日本国大使館「日本企業のためのセルビア関連情報」
(2025 年 6 月)から引用

1. セルビアの経済は、新型コロナウイルスなど厳しい環境にもかかわらず、十分な回復力を示してきた。2020 年から 2024 年までの累積 GDP 成長率 18.3%は、内需、主要インフラ部門への投資、および中央銀行によるインフレの安定化によって支えられている。2024 年の経済成長率は 3.8%に達すると予測されており、生産と輸出の多様化、外国直接投資(FDI)の大幅な流入により、マクロ経済の安定を維持することに成功している。今後、2027 年のベオグラード博に向けた大規模な公共投資が計画されている背景もあり、内需に牽引され、2025 年から 2027 年までの累積成長率は 13.7%になると予測されている。
2. IMF(国際通貨基金)の支援を受け支出削減努力を続けた結果、2017 年に単年度で財政黒字を達成した。その後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、2020 年以降財政赤字が続いているが、赤字幅は減少傾向にある。2019 年以降、経済刺激策の主要な柱として公共投資の拡大に力を入れている。また、政府による後押しもあり、外国直接投資の流入は増加傾向にあり、2022 年は 44 億ユーロ、2023 年は 45 億ユーロと過去最高を更新している。
3. 2024 年 10 月に、スタンダード・&・プアーズ社はセルビアの信用格付けを投資適格水準(BBB-)に引き上げ、フィッチ格付け機関は 2025 年 1 月に格付けの引き上げのためのポジティブな見通しを示している。
4. エネルギー分野を中心に国営・公営企業の整理・民営化、公的部門の構造改革は、喫緊の課題となっている。不良債権処理、公的債務のマネジメント、若年層失業率も長期的課題であるが、年々改善がみられる。
5. 国内産業は、自動車及び部品、機械製造等の製造分野、電力、ガス等のエネルギー分野が主要分野であり、農業分野もポテンシャルが高い。近年急成長が目立つのは情報通信技術部門である。
6. 経済分野において中国の存在感が年々拡大している。中国公的機関の融資による高速道路、橋、鉄道(ベオグラード・ブダペスト高速鉄道など)等のインフラ事業、中国企業による大型国営企業(スメデレボ製鉄所、RTB ボール鉱山)の買収などに顕著に示される。

主要産業： 製造業(13.3%)、卸売・小売業(10.4%)、不動産業(5.0%)、農業等(3.8%) (2023 年、セルビア統計局)

※ その他は、建設業、情報通信業、医療・福祉、公共事業・防衛、科学技術産業、教育、輸送・倉庫、金融・保険、電気・ガス 等

GDP： 891 億米ドル(2023 年、セルビア統計局)

一人当たり GNI: 13,536 米ドル (2023 年、セルビア統計局)

経済成長率: 3.8% (2023 年、セルビア統計局)

物価上昇率: 3.9% (2024 年、セルビア統計局)

失業率: 8.6% (2024 年、セルビア統計局)

主要貿易品目: (2024 年、セルビア統計局)

輸出 約 330 億米ドル
電気機械・装置・器具、発電用機械・設備、金属鉱石・金属スクラップ、ゴム製品、非鉄金属、果実・野菜、穀物・穀物製品

輸入: 約 420 億米ドル
電気機械・装置・器具、石油・石油製品、道路車両、一般産業用機械・設備、医薬品、金属製品、非鉄金属、鉄鋼

主要貿易先: (2023 年、セルビア統計局)

輸出: ドイツ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、中国、イタリア、ハンガリー

輸入: ドイツ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、中国、イタリア、ハンガリー

通貨: ディナール ※約 1.47 円 2025 年 8 月 4 日 セルビア中銀 TTB レート

経済援助: 主な援助国・援助受入額 (2021 年、単位: 百万米ドル)

① ドイツ (126.13) ② フランス (71.71) ③ 日本 (62.81)

■日本とセルビアの二国間関係

政治関係: 日本は 2006 年 6 月 16 日、セルビアがセルビア・モンテネグロを承継することを確認した。なお、セルビアとの友好関係の起算年は、1878 年にセルビアの独立が承認された後の初代君主ミラン・オブレンビッチ王と明治天皇との間で書簡が交換された 1882 年。

経済関係: 日本の対セルビア貿易額・品目 (2023 年日本財務省貿易統計)

輸出: 約 69.3 億円 / ゴム製品、医薬品、織物用糸

輸入: 約 535.2 億円 / たばこ、衣類、果実・野菜

進出日系企業による直接投資

JT インターナショナル、矢崎総業、ハイレックス、
関西ペイント、前川製作所、TOYO TIRE、ニデック 等

セルビアの主な進出日系企業

企業	所在地	製品、サービス、特記事項
JT インターナショナル	センタ	紙巻たばこ
矢崎総業	シャバツ	自動車部品(ワイヤーハーネス)
TOYO TIRE	インジャ	タイヤ
前川製作所	スメデレポ	産業用の冷蔵・冷凍装置
ハイレックスコーポレーション	スレムスカ・ミトロビツァ	自動車部品(ウインド・レギュレーター)
ニデック	ノヴィ・サド	車載用モータ及び関連製品
関西ペイント(ヘリオス)	ゴルニ・ミラノバツツベオグラード	塗料
JFE 商事	インジャ	電磁鋼板
NTT データ・ルーマニア	ノヴィ・サド	IT 事業
SRA ホールディングス (SRA ヨーロッパ)	ベオグラード	現地法人(Soft Road Apps Doo)がシステム開発、アプリケーション開発
伊藤忠商事	ベオグラード	仏ヴェオリア等との合併で廃棄物処理・発電事業(PPP) 「ドール」ブランドで現地の果実加工企業に出資
三菱商事	ベオグラード	
竹中工務店	ベオグラード	
日本通運	ベオグラード	
武田薬品工業	ベオグラード	政府と希少疾患に関わる診断向上に関する覚書を締結

三菱パワー(三菱重工業グループ、東京)がセルビアで排煙脱硫装置(FGD)2基を受注しているほか、アサヒグループ食品(アサヒグループホールディングス、東京)はセルビアで酵母エキス(調味料)を製造。

※日本外務省「海外進出日系企業拠点数調査(2023年)」では34社が進出。

文化関係： 日本の文化無償資金協力により、セルビアの文化・芸術団体に対して楽器、視聴覚機材、音響・照明機材等を供与。また、草の根文化無償資金協力により、セルビアの世界遺産の修復・保全のための機材、日本語教育施設の LL 教室機材等を供与。

在留邦人数： 255 人(2024 年 10 月現在)

援助実績： 2022 年度までの累計総額：約 581.2 億円
円借款：282.5 億円、無償資金協力：232.4 億円、技術協力：66.3 億円

※ 両国友好を象徴する公共バスの引退

1990 年代の旧ユーゴスラビア紛争への関与により包括的な国連制裁を受けたこと等で劣悪な状況にあった公共輸送力の復旧を支援するため、2003 年に日本がベオグラード市に寄贈した 93 台の黄色いバスは、「ヤパナッツ」(日本人の意)の愛称で、20 年間にわたりベオグラード市民に親しまれ、大切に維持管理されたが、2023 年末に惜しまれつつ現役を引退した。

人の往来： 日本→セルビア 5,407 人(2024 年)
セルビア→日本 5,747 人(2024 年)

日本からのアクセス(航空便利用)

日本からの直行便はない。成田・羽田・関西の各国際空港からイスタンブール経由(イスタンブールまで約 12 時間 30 分、イスタンブールから約 1 時間 45 分)、フランクフルト経由、ミュンヘン経由で到着するケースが多い。

ニコラ・テスラ国際空港はベオグラード中心部から西へ 18km にあり、市内まで連絡バスもあり。

日本との時差はマイナス 8 時間(サマータイム時はマイナス 7 時間)。

在外公館： 在セルビア日本国大使館(ベオグラード) 今村 朗 特命全権大使

駐日セルビア共和国大使館(東京都)
アレクサンドラ・コヴァチュ 特命全権大使

在大阪セルビア共和国名誉総領事 上山 直英 氏
(大日本除虫菊株式会社 代表取締役会長)

■両国交流に関する団体

日本セルビア友好議員連盟

会長 逢沢一郎 衆議院議員、事務局長 城内実 衆議院議員

日本セルビア協会 (Japan Serbia Society)

2005 年 3 月に設立。両国間の民間レベルにおける交流、経済関係の強化、文化交流等を通じて両国の友好関係の促進を目的として設立された任意団体。

会員数 274 名(団体含む) うち法人会員 16 社

JBAS: Japanese Business Alliance in Serbia (セルビア日本商工会)

在外日本商工会議所。2017 年 3 月に設立。進出日系企業など約 40 社が加盟。

■人々の暮らし

食、嗜好品： セルビア料理ではバルカン半島諸国に共通するロースト肉の料理をはじめ、歴史的に関係の深いトルコ、オーストリアやハンガリーの影響を受けた料理も多い。農業が盛んなセルビア料理には、肉、野菜や果実がふんだんに使用される。酒類では果実から作られた蒸留酒「ラキア(40 度前後)」などが有名で、ワインも品ぞろえが豊富。国民一人当たりの年間総アルコール消費量はビール換算で 160 リットル、日本酒換算で約 30 升。また、2020 年の喫煙率は 39.8%で世界 3 位と、非常に高い(1 位ナウル、2 位ミャンマー、3 位セルビア、4 位パプアニューギニア)。

スポーツやレジャー：

最も人気があるスポーツはサッカーで、ベオグラードの 2 大スタジアムはレッドスター・ベオグラードと、パルチザン・ベオグラードなど、複数のクラブの拠点となっている。ドラガン・ストイコヴィッチ選手(セルビア代表チーム監督)は、1994 年から 2001 年まで名古屋グランパスエイトで活躍した。テニスでは、国際的にノバク・ジョコビッチ選手が知られている。バスケットボールも盛んで、KK レッドスターや KK パルチザンなどが支持されている。

■開催地ベオグラード（出所：ジェットロ調査）

- 概況： ベオグラードは二つの国際河川（ドナウ川とサヴァ川）が合流する要衝に位置し、非常に古くから発展してきたバルカン半島有数の大都市である。かつてセルビアを含む 6 カ国で構成されたユーゴスラビア社会主義連邦共和国の首都が置かれ、現在はセルビアの首都として、政治や行政はもとより、交通（道路、鉄道、河川、航空）と通信の社会インフラ、経済、文化など、あらゆる面で同国の中心地となっている。セルビアとスロベニア、クロアチア、セルビア、北マケドニアなど周辺国を結ぶ高速道路、欧州の主要な水路ドナウ川などが重要な輸送インフラとなっている。
- 人口： 首都圏の人口は約 168 万人であり、セルビア国民の 4 人に 1 人が首都圏に在住している。なお、ベオグラード市民の約 8 割はキリスト教（セルビア正教会）を信仰し、キリスト教（カトリックなど）やイスラム教徒はそれぞれ 3～4%にとどまる。
- 気候・風土： ベオグラードの北部には平野が、南部～西部には丘陵と山岳地帯が広がっている。北海道と同じ緯度に位置し、気候は湿潤大陸性気候に属するが、寒暖の差が大きく、夏は最高気温が 40 度近くになる日もある一方、冬は最低気温が氷点下 10 度以下となる日もある。月間降水量は年間を通して 50～60mm とやや乾燥しているが、秋から冬にかけて濃霧が発生しやすいことでも知られている。
- 観光： 主な観光地としては、ベオグラード港、カレメグダン要塞公園、ベオグラード植物園、スカダルリヤ通り、聖サワ大聖堂、国際会議場サヴァ・センターなどがある。
- 芸術・文化： ベオグラードには、芸術科学アカデミー、国立図書館、国立博物館、国立劇場（※）、芸術大学など、芸術と文化の中核施設があり、また、演劇、展示会、コンサート、パフォーマンスイベントなど芸術プログラムは年間 1 万 1,000 件以上。
※ ノヴィ・サド市には、国内で最も歴史のある、最大規模の国立劇場がある。

■日本のイメージに関するオンライン調査

(出所: ジェトロ・ブダペスト事務所が 2024 年 8 月に実施)

調査対象者数: 92 名					
【年齢層】		【性別】		【家族】	
～19 歳	13	女性	63	1 名	11
20 代	33	男性	25	2 名	13
30 代	8	回答者数計	88 名	3～5 名	58
40 代	21			6 名～	4
51 歳～	14			回答者数計	86 名
回答者数計	89 名				

【現在行っているスポーツ】

フィットネス、トレーニング 24 > ランニング 5 > サッカー 7 > 柔道 2

【スポーツ、レジャーの頻度】

月 1～2 回 33 > 年 1～3 回 25 > 何もしていない 15 > 週 1 回 12

【普段聴く音楽】 ※重複回答可能

ポップス 55 > ロック 47 > ジャズ 31 > クラシック 26 > 地場伝統音楽 24

【好きな映画の制作国】 ※重複回答可能

米国 63、欧州 63 > 自国 50 > 日本 43 > 韓国 20 > インド 8、中国 8

【日本への渡航歴】

なし 71 > あり 18 ※「日本へ行きたい」と回答した人 81

【日本人のイメージ】 ※重複回答可能

親しみやすい 58 > 几帳面 47 > 恥ずかしがり屋 44 > 明るい性格 28

【日本に関して興味のあること】 ※重複回答可能

文化 54 > 歴史 41 > 日本食 40 > アート 31 > アニメ 21
> 伝統芸術 19 > 最新技術 16、武道 16 > 音楽 10 > ゲーム 7

【ベオグラード博の日本館で紹介してほしいこと】 ※重複回答可能

文化 74 > 日本食 52 > 伝統的な祭り(盆踊り、花火、屋台) 46 > アート 44
> 先進技術 37 > 伝統的な遊び(けん玉、折り紙、凧揚げ、鬼ごっこ) 34
> アニメ 25 > 伝統的なスポーツ(柔道、空手、相撲) 23

■ベオグラード博の会場計画

【会場の立地】



JBAS (Japanese Business Alliance in Serbia: セルビア日本商工会)

【会場図面、会場俯瞰イメージ、航空写真:会場整備状況(2024 年 9 月時点)】

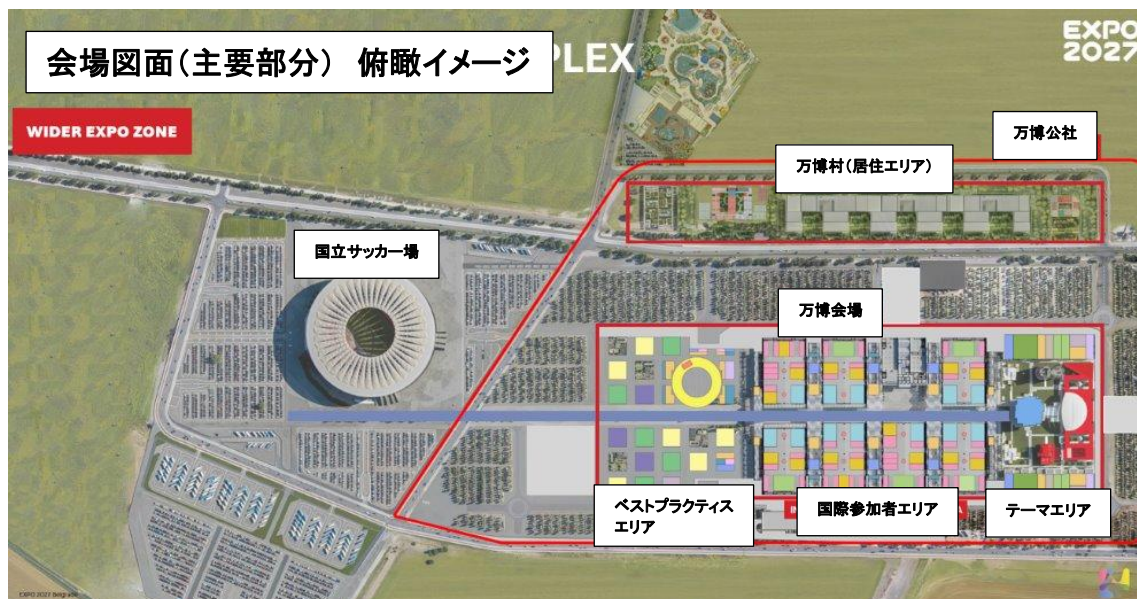
(出所: 万博公社)



展示パビリオン配置と展示スペース配分

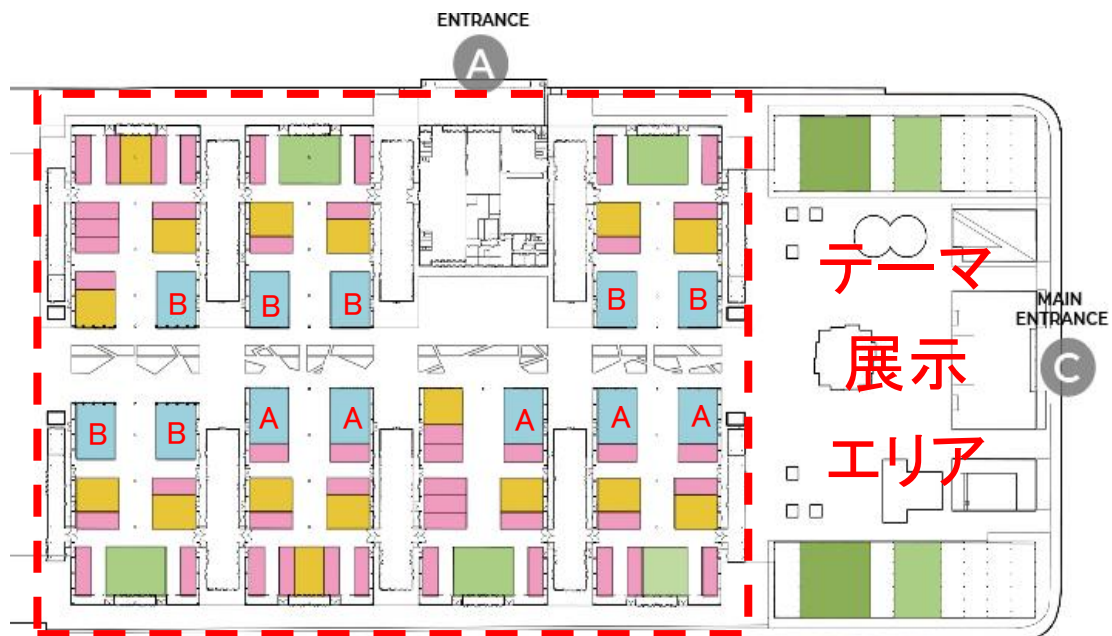
出展エリア(面積)、パビリオンのタイプ			数量		展示割当面積(㎡)	
テーマエリア(5.4ha) ※セルビア館(3,000 ㎡)も当エリアに出展						
国際参加者エリア (11ha)	セルビア	単独館	83	1	3,000	39,612
	参加国・ 地域			73	小 324/中 648/大 972	
		共同館		9	小 972/中 1,296/大 1,944	
ベストプラクティス エリア(8.6ha)	国際機関・NGO		2		768	1,536
	ベストプラクティス		9	3	1,296	3,888
	企業			6	1,296	7,776
計(25ha)			94			65,448

閉幕後、会場はベオグラードの新街区として開発される予定。テーマエリアは万博記念館や文化・スポーツのイベント会場、国際参加者エリアは見本市会場、ベストプラクティスエリアは学校など文教地区に転用され、ホテルや宿舍なども残される。



【国際参加者エリア(11ha、82 パビリオン)】

参加国・地域が主催者の用意したパビリオン内の展示スペースに出展するエリア。
これまで認定博覧会で、日本は大型単独館に出展してきた。大型単独館には構造物
の壁面が2つ、3つの二種類がある。



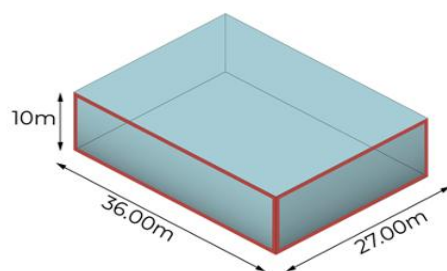
	小型単独館 (324 m ²)	45
	中型単独館 (648 m ²)	16
	大型単独館 (972 m ²)	12
	小型共同館 (972 m ²)	1
	中型共同館 (1,269 m ²)	6
	大型共同館 (1,944 m ²)	2



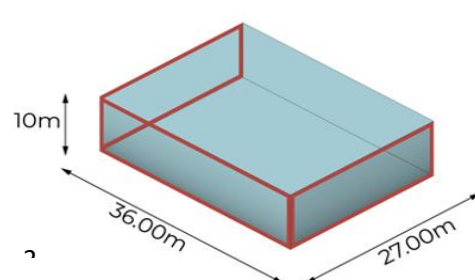
会場俯瞰イメージ(大型単独館 外観)

【大型単独館(躯体寸法)】

A タイプ(外壁 2 面)



B タイプ(外壁 3 面)



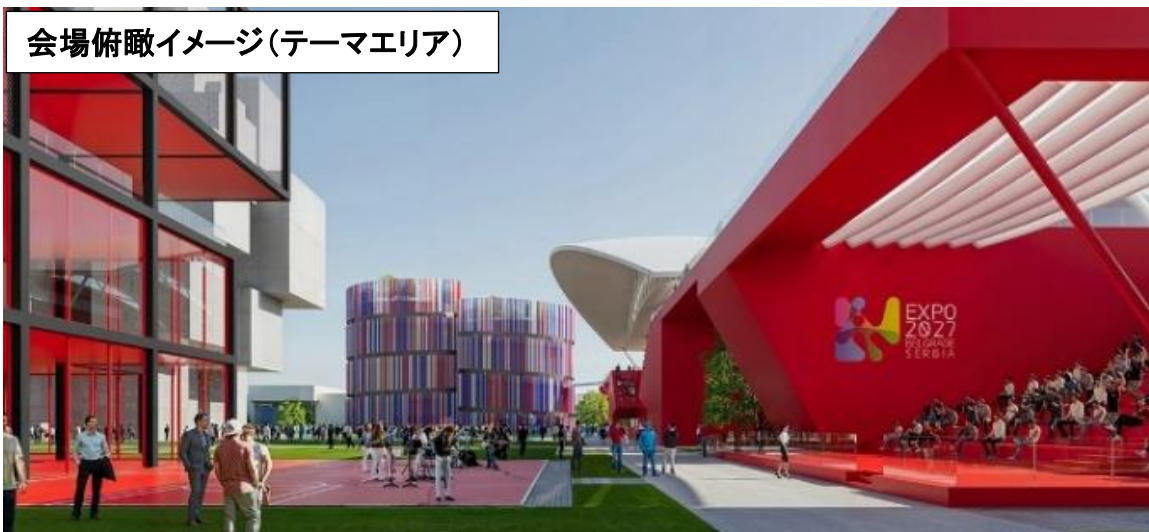
【テーマエリア(5.4ha)】

万博公社が博覧会テーマに沿った展示を行うエリア。セルビア館も出展。
(大阪・関西万博では8つの「シグネチャーパビリオン」が出展)

会場俯瞰イメージ(テーマエリア)



会場俯瞰イメージ(テーマエリア)



【ベストプラクティスエリア(8.6ha)】

博覧会テーマに沿った優れた取り組みを紹介または実施するエリア。
企業、国際機関や NGO も出展する。

【その他】

会場敷地に万博公社が立地するほか、
会場に隣接して万博村、ホテル、幼稚園
が設置される。



会場俯瞰イメージ(万博村:居住エリア)

日本政府出展検討委員会 委員名簿

(座長) 京都大学大学院 教育学研究科 教授	佐野 真由子 氏
公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 国際局 担当部長	安藤 勇生 氏
一般社団法人 日本経済団体連合会 常務理事	岩村 有広 氏
東京都公立大学 理事(国際担当)	ウスビ サコ 氏
UG WORK 合同会社 代表	澤田 裕二 氏
京都大学 総合博物館 准教授	塩瀬 隆之 氏
日本セルビア協会 会長	角崎 利夫 氏
東京大学大学院 人文社会系研究科 准教授	松田 陽 氏

【幹事省】 経済産業省

【副幹事省】 文部科学省

【事務局】 参加機関(独立行政法人日本貿易振興機構)

日本政府出展検討委員会 審議経緯

- ・ 第1回検討会(2025年9月19日) ※公開

主な議題:

- ① 検討会の進め方等について(事務局)
- ② セルビア共和国及びベオグラード国際博覧会の概要の説明(事務局)
- ③ 日本館基本計画構成案の説明(幹事省)
- ④ 日本館のメッセージについて討議

- ・ 第2回検討会(2025年10月17日) ※非公開(資料、議事要旨は公表)

主な議題:

- ① 幹事省説明
 - ・「日本政府出展検討委員会(第1回)でのご意見」
 - ・「ベオグラード博で日本が発信すべきメッセージ(案)」
- ② 日本館におけるメッセージ案に関する討議
- ③ 今後のスケジュール

- ・ 第3回検討会(2025年10月21日) ※公開

主な議題:

- ① 幹事省説明
- ② 日本館基本計画(案)に関する討議